

沖縄だより

<http://okinawa-branch.com/>

No. 95

2019年11月25日

【発行】平和フォーラム沖縄事務所

tel/fax:0980-43-0740

mail:peaceforum.okinawa@gmail.com

あらたに毎月第3木曜日に抗議集会・座り込み

辺野古新基地建設を造らせないオール沖縄会議は、毎月第3木曜日に500人規模の座り込み抗議行動をとりくむことをあらたに決定し、その第1日目の集会が11月21日、冷たい雨と強い風が吹き荒れるなか最大約230名、延べ640人が集まりました。

米軍キャンプ・シュワブゲート前での座り込みは、昨年7月14日深夜、防衛省が突如歩道の大部分を基地内にとりこみ、高さ4メートルもある柵を設け、交通規制用のポリタンクを置いて抗議と座り込み行動の範囲を狭めるようにしてきました。このため、抗議行動の参加者は車道側に押し出され、国道を通る車両と接触すれすれの非常に危険な状態に追いやられているのと同時に、高さ4メートルの柵が強風で倒れるなどしたら、国道を走る車両も命に係わる事故を起こしてしまうことも想定されます。

このような状態の中、オール沖縄会議は参加者の安全を第一に配慮して、毎月第一土曜日の集中行動日にはテントを中心に座り込みと抗議集会を展開してきました。

11月21日の第三木曜日行動は、ゲート前に約300人であったため、車道にあふれる状態で座り込みを貫徹しました。機動隊も普段の三倍の100人を超える体制で、装甲車（カマボコ）による囲い込みを4か所設置して、我々を弾圧してきました。久しぶりにゲート前は緊張が走り、「機動隊は違法工事に手を貸すな!」「暴力はやめろ」「女性の身体に触るな」など、厳しい抗議と抵抗が繰り返されました。その結果約30分は、ダンプや生コ車両をストップさせました。

各界から辺野古の闘いに連帯のアピール

またこの日は、反核平和や沖縄の過重な基地負担の解消を訴える「世界平和アピール7人委員会」の委員のみなさんが新基地建設が強行される米軍キャンプ・シュワブゲート前を訪れ、私たちと一緒に座り込んで激励のアピールしてくれました。「国民を守るのは軍備ではない」と写真家の大石芳野さん。「冷戦も終わり、ベルリンの壁もなくなった。この基地のフェンスも必ずなくなる」と慶応大学委名誉教授の小沼通二さん。「辺野古の問題は沖縄の問題でも日本の問題でもなく地球の問題だ」と名古屋大学名誉教授池内了さん。（以上発言の内容は琉球新報11月22日付から）

新基地建設阻止でアメリカ環境NGOから「ホープスポット」に辺野古・大浦湾の一角が認定されたとの報道（10月26日付琉球新報）がありました。この認定で「世界は見ているんだという希望につながる」と東恩納琢磨さん（名護市議、ジュゴン保護センターの吉川秀樹さんは、151万平方キロに7000の海洋生物が棲息するアメリカ・ハワイ州の海洋保護区にも匹敵すると意義を語っています。日本自然保護協会の安部真理子主任は「世界中のホープスポットの力を集めれば、政策決定者は無視できない。海の保全に役立つ力になる」と強調しています。（10月26日付琉球新報）。

辺野古・大和浦湾の会海域は絶滅の恐れがある262種を含む5300種の海洋生物が棲息していると確認されています。ジュゴン保護キャンペーンセンターの吉川秀樹さんは、151万平方キロに7000の海洋生物が棲息するアメリカ・ハワイ州の海洋保護区にも匹敵すると意義を語っています。日本自然保護協会の安部真理子主任は「世界中のホープスポットの力を集めれば、政策決定者は無視できない。海の保全に役立つ力になる」と強調しています。（10月26日付琉球新報）。

このように国の内外の自然を守る団体が基地建設は無謀だと厳しく糾弾しています。にもかかわらず、11月14日には土砂投入から11か月が経過したことを、沖縄タイムスが写真付きで報道しています。

これまでの埋立で、面積にして四分の一の工事が進行していますが、軟弱地盤を抱える大浦湾側は県が改良工事を認めなければ埋立に着手できません。

私たちの闘いは、工事を阻止するまで闘うことにつきます。全国のフォーラムのみなさん、ともにガンバロー!